

会 議 録

会議の名称	第3回総合計画審議会
開催日時	令和7年11月20日(木) 午後1時30分から午後3時20分まで
開催場所	和泉市役所別館3階 3-1・3-2会議室
出席者	<p>[委員(敬称略)] (会長)水上 啓吾、(副会長)辻本 法子 (委員)山本 秀明、浜田 千秋、森 久往、坂本 健治、飯阪 光典、赤木 賢雄、定 孝昌、吉水 智紀、上西 恵子、佐藤 正浩、合田 耕三、冢瀬 徳夫、武石 英士、神谷 雅之、木口 祥孝、柳 伸之介 (欠席)合田 研吾、永田 就三、坂上 宏行</p> <p>[事務局] 前田市長公室長、尾郷市長公室次長、門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、田嶋政策・資産マネジメント担当課長、奥山総括主幹、中総括主査、江口主査、有限責任監査法人 トーマツ 増田</p>
会議の議題	1. 開会 2. 各計画素案の審議 ①前回の審議会で継続協議とされた事項 ②総合計画及び総合戦略に対する意見 3. その他
会議の要旨	各計画素案にもとづき委員会の意見に対し事務局の考えを示し、意見交換を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
会議録の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
その他の必要事項	傍聴者 1名

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

	(事務局【政策企画室】から、資料の確認、出席者の確認、会議の成立について案内を行った)
水上会長	<p>【1. 開会】</p> <p>○本日は前回の審議会で継続協議とされた事項と、総合計画、総合戦略に対する意見について議論したい。</p>
水上会長	<p>【2. 各計画素案の審議 ①前回の審議会で継続協議とされた事項】</p> <p>○まずは次第2の①について事務局から説明いただきたい。</p> <p>(事務局【政策企画室】から、資料1～5に基づき説明を行った)</p>
森委員	<p>【資料 1-1 についての意見】</p> <p>○総合計画・総合戦略の体系および範囲について第1回審議会で説明いただいたが、各計画との関係性や位置づけについて改めて説明いただきたい。</p>
事務局	<p>○総合計画については、羅針盤としての役割であり、具体的な取組は記載していない。具体的な取組については、特に財源の確保が必要なものや本市としての重点取組を創発プラン 2.0 に記載しており、併せて組織・人づくりについても記載している。総合計画・創発プラン 2.0・各個別計画で関係づけて構成しているが、総合戦略については、地方創生の取組を記載しており、本戦略を作成することで国の地方経済・生活環境創生交付金を申請することが可能となる。こども誰でも通園制度については国の地方経済・生活環境創生交付金の獲得を狙うものではないので取組には記載していないが、制度趣旨については総合計画に追記すべきと考えている。</p>
神谷委員	<p>【資料 1-2 についての意見】</p> <p>○「ちょうどいいまち」という表現では分かりにくいのではないかという主旨から、便利・快適や、安心、居心地よいというような表現をされてはということを提案した。これらの表現と施策とうまくつながっていない点も見受けられるが、修正内容については一定考えを理解した。</p>
山本委員	<p>○「ちょうどいいまち」という表現は個々の人の感覚に依るものであり、和泉市としても少し定義を明確にすべきであると感じる。表現として突出した取組は行わないと見えてしまうのではないか。和泉発日本と市長も言われているが、突出した取組を行い、外部に向けて発信することが重要ではないかと考えており、意見として申し上げたい。</p>
柳委員	<p>【資料 1-4 についての意見】</p> <p>○信太山クロスカントリーについては、広く集客したいのか、市民に楽しんでもらえれば</p>

	いいのか主旨としてはどちらなのか。
事務局	○発信先としては大阪府内が中心となっているが、広く集客したいという主旨で開催していると思われる。担当課に改めて事業主旨を確認させていただく。
山本委員	<p>【資料1-7についての意見】</p> <p>○人口問題がこれからさらに課題となる中で、住んでいる人だけではなく移住についても取組が必要ということから意見させていただき、案2もご提示いただいた。</p> <p>資料4について、「過度な自治体間競争に囚われるのではなく」という表現があるが、ふるさと納税や移住についても自治体間競争は実際に存在し、本市でもそういった観点で産業用地の整備や富秋中学校校区等のまちづくりの取組を中心に取り組んでいると捉えている。「過度な自治体間競争に囚われるのではなく」とあえて市として示す必要はないのではないか。</p>
水上会長	○資料4の「過度な自治体間競争に囚われるのではなく」について計画等に記載するのか。
事務局	○資料4の「過度な自治体間競争に囚われるのではなく」についてはキャッチフレーズを考える上での資料であり、計画等に記載するものではない。
神谷委員	○市外からどう見られているのかを考慮してどのようにブランド価値を高め、伝えていくのかということが移住・定住には重要であると思う。そういった主旨から今まで意見させていただいた。
佐藤委員	○案2について冒頭に「住んでみたい」とつけるとキャッチーではなくなるのではないかと感じる。語呂の良さも重要ではないか。
飯阪委員	○案2の「定住促進や来訪促進に引き続き～感じていただくとともに」という文言を案1にも追加してもよいのではないかと。
柳委員	○将来都市像のキャッチフレーズとしては「ちよとええ」のように関西弁にするなどの方が馴染みがよいのではないかと。
辻本副会長	○マーケティングの観点では覚えやすい方がよいと思う。案2については「住んでみたい」の後に「、」がついているのは違和感があり、案1の方が覚えやすいと感じる。案2の「定住促進や来訪促進に引き続き～感じていただくとともに」という文言は案1にも追加すべきではと思う。
水上会長	○案1に案2の「定住促進や来訪促進に引き続き取り組み、市外の人から「住んでみたい」と感じていただくとともに、」という文言は案1にも追加したものとするのでいかがか。
山本委員	○現行の総合計画についても将来都市像のキャッチフレーズが定着していないと感じる。また、総合計画の将来都市像のキャッチフレーズを市外の方が見る機会には実際にはあまりないのではないかと考えている。感覚的な聞きなじみの良さを重視するのではな

	く、論理的な議論のもと、決定すべきと考える。
水上会長	○感覚的な意見だけではなく、一定論理的な議論もなされてきた案と認識している。市として移住定住促進に向けて具体的に組み込まれている内容があればご教示いただきたい。
神谷委員	○市外の方にとって総合計画や市のHPを見るときに将来都市像のキャッチフレーズが最初に見るものになるかと思う。市外の方から見てキャッチーであることも重要ではないか。
水上会長	○各委員の意見や事務局案は一定同じ方向を向いていると考えている。全員が納得できる表現というのはなかなか難しいと思うが、案1に案2の「定住促進や来訪促進に引き続き取り組み、市外の人から「住んでみたい」と感じていただくとともに、」という文言を案1に追加したものとするのでいかがか。
	(意見なし)
水上会長	○案1に案2の「定住促進や来訪促進に引き続き取り組み、市外の人から「住んでみたい」と感じていただくとともに、」という文言は案1にも追加するという事で決定とさせていただきます。
水上会長	<p>【2. 各計画素案の審議 ②総合計画及び総合戦略に対する意見】</p> <p>○続いて議題2-②について事務局から説明いただきたい。</p> <p>(事務局【政策企画室】から、資料6、7に基づき説明を行った)</p>
柳委員	<p>【基本目標3 施策番号12についての意見】</p> <p>○意見を踏まえて「国際」という文言を記載いただいたが、英語検定受験料の補助だけでは国際社会で活躍できる人を育てる取組としては不十分と考えられる。ただし、グローバル化は重要と考えているため、施策が英語教育だけなのであれば、全面に押し出すのではなく、「社会(国際社会を含む)」としてはどうかという主旨であった。</p>
事務局	○英語教育についてはALTの配置等も行っているが、その他目玉となる施策は取り組んでいるとは言えないため、「国際」という文言については削除させていただいた。
坂本委員	○総合計画とはこれからめざすべき姿に対する施策を示すものであり、現在取り組んでいないので記載しないという考えではいけないのではないかと。国際社会で活躍する人を育てるという考えではなくなったということか。
事務局	○国際社会で活躍する人を育てるという考えをもって初期事務局案を示させていただいた。国際社会だけではなく地域社会で活躍できる人材を育成することも重要という意見を踏まえて、「国際」という記載を削除させていただいた。

坂本委員	○国際社会で活躍するために必要なのは英語教育だけではないのではないか。国際社会で活躍できるということは日本社会でも活躍できるような人材であると思う。そういった人材をどのように総合的に育成していくのかを計画に盛り込んでいくことが必要であり、国際社会という記載を削除する必要はないのではないか。そういった取組を進めることに対して想いはあるか。
事務局	○国際社会で活躍する人材を育成すべきという想いはあり、ご意見踏まえて再度調整し提案させていただく。
坂本委員	○「世界に役立つ人」など、日本でも活躍でき、世界でも活躍できるというニュアンスの記載にしてはどうか。
柳委員	○英語教育だけではなく、国際社会で活躍するためには総合的な取組が必要であると考えため、そのようなことが読み取れる記載にしていきたい。
事務局	○施策の方針に盛り込む方向で再度検討させていただく。
柳委員	<p>【基本目標3 施策番号14 についての意見】</p> <p>○「多様な学びの提供」を先に記載し、「歴史・文化の保存・活用」を後に記載する方が良いのではないか。</p>
事務局	○ご指摘のとおり修正させていただこうと思うが、各委員にもご意見いただきたい。
神谷委員	○「多様な学びの提供」と「歴史・文化の保存・活用」を1つにまとめることには違和感を覚える。ただ、1つにまとめるというのであれば、「多様な学びの提供」の方が広い概念であるため、そのような修正でよいのではないか。
神谷委員	○人口増加が見込めない中で、現状住んでいる市民のスキルアップやチャレンジをどのように後押しするのかということが重要と考えている。国でもそういった施策を実施しているが、市民に近い自治体においても取組を行う意義はあると考える。例えば、四條畷市では市民の学びなおしに対する補助金制度を設けている。
事務局	○国の施策と併せて本市においても独自の補助制度を設けているが、さらに拡充すべきではというご意見と認識した。担当課にもご意見を共有させていただく。
神谷委員	<p>【基本目標4 施策番号15 についての意見】</p> <p>○人材確保・活用・育成は非常に重要であるため、総合計画にもその観点を記載してはと考へ、意見した。内部で取り組み、管理されていくという事は理解したが、職員の人材育成等がひいては市民満足度の向上にもつながるため、その観点を踏まえて取り組んでいただきたい。</p>
定委員	<p>【基本目標4 施策番号16 についての意見】</p> <p>○秋津野ガルデンでは木造の小学校を活用して都市と農村の交流をめざしたグリーンツーリズムに取り組んでいる。みかん産業の振興や、レストラン、お土産販売等もあり、本市</p>

	<p>においても、横山・南横山小学校跡地を南部リージョンやアグリセンターと連携しながら地域の活性化につながるような運用ができればよいかと考える。</p>
事務局	<p>○横山小学校跡地について、槇尾学園に関する統合に伴い、校舎に関しては公設公営で活用することはできず、除却もしくは民間に所有権移転という方向性である。また、市街化調整区域内であり、開発にあたっては制限もあるため、現在、庁内にて協議、検討を進めているところである。</p>
柳委員	<p>【総合戦略についての意見】</p> <p>○人口増減に関して、南海トラフ地震を想定した人口移動の影響を見込むこともあり得る。</p>
事務局	<p>○人口ビジョン策定にあたって、2050年までの人口増減に関して、こういった要因を見込むか議論を行ったが、例えば富秋中学校区等のまちづくりや、はつが野の分譲地等をはじめ、様々な上振れ・下振れの要因が考えられる。しかし、南海トラフ地震の影響しか、様々な要因の影響を正確に見込むことは難しく、人口推移に基づいて見込みを示している。それに対して様々な施策を行うことにより、見込みを上回っていくという事を目標として据えている。</p>
柳委員	<p>○人口増減の諸々の要因を正確に見込むことは難しいということは理解できるが、もう少し高い目標を設定してもいいのではと感じた。</p>
坂本委員	<p>○人口が減ってはいけないという理由は何か。</p>
事務局	<p>○住民あつての市であると考えている。また、コミュニティ形成および維持においても人口減少を防ぐことが必要と考えている。</p>
坂本委員	<p>○市の運営としては人口を維持することが重要なのではなく、生産人口を確保し税収を確保することが重要である。本市では急激に人口減少しないとしても、高齢化率は急激に高くなり、財政は悪化するのではないか。</p> <p>○人口について説明する際に、そういったことが分かるように説明していただきたい。本市として、高齢になってから首都圏での生活が苦しくなり、Uターンで本市に転入してくる方が多くなっても良いという考えか。</p>
事務局	<p>○本市としては特定の世代が突出して多くなる、少なくなるといったことのないよう各世代のバランスをとることが重要と考えている。例えば、生産人口だけが多くなった場合、その世代が高齢化した際にバランスが悪くなる。</p> <p>○問題意識としては、30代ではマイホーム購入の際に本市を選んでいただいている等から転入超過となっているが、20代においては就職や進学を理由に市外への転出超過となっている。転出抑制と転入促進の両面で取り組んでいく必要があると考えている。</p>
坂本委員	<p>○各世代をバランスよく転入促進していくという説明に聞こえてはいけない。</p> <p>本市では出生率が増加しておらず、若い世代の流入を増やしていかないと税収を納める生産人口を維持できない。まずは子育てサービスを充実させ、子育て世代を呼び込み、</p>

	<p>生産人口を維持することで税収確保ができる。その結果、高齢者サービスも実施できるという流れを市民にも説明することが重要ではないか。計画に記載するというよりも正確に説明をしていただきたい。</p>
事務局	<p>○ご意見踏まえて説明を行うようにさせていただく。</p>
柳委員	<p>○人口問題を議論する上で人口データを共有し、共通認識を持つことは重要である。本市は周辺自治体と比較しても人口に関しては高齢化率を含めて比較的優位である。</p>
水上会長	<p>【3. その他】</p> <p>○その他意見はあるか。</p> <p style="text-align: center;">（一同意見なし）</p>
水上会長	<p>○本日の議題は以上である。事務局から事務連絡があればお願いする。</p> <p style="text-align: center;">（事務局【政策企画室】から、次回審議会の開催日等の事務連絡を行った）</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>